

ワルター フライシュマン Walter Fleischmann

プロフィール

ウィーン国立音楽大学（旧ウィーン アカデミー）にてピアノをパウル ワインガルテン、リヒャルド ハウザーに師事、またリード伴奏をエリック ウェルバ、室内楽をオットー シュールホフに師事する。

演奏活動、ラジオ録音をヨーロッパ各地（オーストリア、ドイツ、スイス、イタリア、旧ユーゴスラビア、スペイン、ポルトガル）とアジアで行なう。

1954年から指導にあたる。

1955年ー1964年 オーストリア、クラゲンフルトにあるケルンテン州立コンセルヴァトリウムにて教授に就任（上級者ピアニストコース）。

1964年より1970年まで アフガニスタン、カブール,におけるウィーン アカデミーの姉妹校の学長及びピアノ科教授に就任。

1964年よりウィーン国立音楽大学（旧ウィーン アカデミー）における教師陣会員の就任。

1970年よりウィーン国立音楽大学（旧ウィーン アカデミー）における教育科、及びコンサート科のピアノ科教授に就任。

1980年より1986年まで中国（上海）での客員教授に就任の他マイスターコース、セミナー、公開講座をオーストリア、ドイツ、ギリシャ、中国、台湾で行なう。

毎年、ウィーンの国際セミナーにてマイスターコースを行なう。

これまでの生徒達はアメリカ、中国、韓国、日本、台湾そしてヨーロッパ各地でコンサート活動を行なう他、コンセルヴァトリウム、音楽大学で後進の指導にあたっている。

レッスンについて（レッスンに使用できる言語: ドイツ語、英語）

音楽的、様式上における教育。

原則を示すことを通して独自の練習と解釈を目的とする。

時代と作曲家の独自のスタイルを考慮し様式上の違いを明確にする。

テクニックに関して:

* 脊柱から指先までの機能的に正しい一連の動きを自意識的にする。

* 間違っただけの無駄な動きを遮断することにより、解剖学的、生理学的に正しい演奏方法を目的とする。

* 正しい練習方法と速くに目的まで到達する練習によりテクニック的に難しい箇所を克服する。

多くの生徒達は自分の能力と才能が充分でない、あるいは曲が難しすぎると考えています。真実から言えばそれは度々、妨げになる間違っただけの動きからきているだけのことなのです。そして、それにより曲を難しいものとしてしまっているのです。繰り返しかかされる生徒からの私についてのコメントは次のとおりです。「フライシュマン教授はレッスンにおいて音楽的あるいはテクニック上の問題の細部にいたるまで、適当に扱う事がなく、疲れることが全くない辛抱がある。」